

2025年3月18日

寿都町長 片岡 春雄 様

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

共同代表 南波 久

同 三木 信香

高レベル放射性廃棄物の地層処分事業勉強会について（照会）

上記については、「専門家と考えよう地層処分のこと」と題して2回シンポジウムが開催されました。企画運営されました職員の皆様のご苦勞に対し、住民運動に取り組む当会といたしまして心から感謝するものです。しかし、講演で原子力発電や地層処分推進を主張されるパネリストの方が提供した資料や説明に、下記のとおり疑問がありますので、貴殿の見解を伺います。

なお、本照会及び回答につきましては、公開質問として本会HPに掲載するとともに各報道機関に情報提供しておりますので併せてご承知おきください。

おって、回答は、3月25日までに文書で回答を、お願いいたします。

記

1 第1回目のシンポジウムでは100名を超える町民の方が来られましたが、第2回は半数に激減し、さらには居眠りしている方もおられました。

貴殿が座られていた前の席でも、又、その近くの席でも幹部職員の居眠りの様子は十分確認できたと思うのですが、主催者として、この事態をどのように捉えていますか？貴殿

の見解を伺います。

2 キャスターの伊藤聡子氏を、パネリストとして選任したのは寿都町ですか。

2- (2) 講演内容から、核のゴミを生み出す元となる原発の必要性を話されていると捉えられました。賛否がある意見については、賛否両方の意見があって初めて町民が正しく判断できると感じています。

例えば、第1回の岡村教授に対する竹内教授がそれに相当すると思いますが、伊藤氏に対して二度の登壇を選択したのは、一方的な意見のみを町民に刷り込むこととなります。

このことについて、貴殿の見解を伺います。

3 第2回の会場で、参加者から伊藤聡子氏へ（ホームページ Q&A 10ページ3）「ハーストルホルメンが詳細サイト特性調査にいきなり出てきましたが、なぜ二段目からの登場なのか？」という質問がありました。

しかし、伊藤氏ご自身が作成した（と思う）資料であるにもかかわらず、「質問の意味が分からない」と答えられませんでした。この度のQ&Aで本件について説明されていますが、日本で初めて文献調査が実施された地域での講演であるにもかかわらず、資料として誠に不十分であり、さらに講演者として不適格であると思いますが、どのように考えますか貴殿の見解を伺います。

4 参加者から、第1回シンポジウムの説明に、伊藤聡子氏への質問で（ホームページ Q&A 12ページ7～10）「今後ともAIとかEVとかが普及すれば6～7倍の電気が必要」と説明したことへの回答で、回答に張り付けられた出典のURLを貴殿は確認されましたか。

4- (2) 回答の出典先のURLを当会で検証しましたが既に削除されています。どのように確認すればよいのかご教示ください。また、削除されているものをHPに掲載された理由を説明願います。

5 伊藤聡子氏は、2020年版の経済産業省がまとめた資料を使い、原発の発電コストは再エネよりも安いという趣旨の報告をしました。しかし、昨年12月に発表された最新

の2023年版の資料では、事業用太陽光発電の方が原発の発電コストよりも安いという試算が出ています。これは新聞報道もなされており、素人でも容易に入手可能な資料です。

【発電コスト検証に関する取りまとめ(案)】

[https://www.enecho.meti.go.jp/committee/council/basic\\_policy\\_subcommittee/mitoshi/cost\\_wg/2024/data/05\\_05.pdf](https://www.enecho.meti.go.jp/committee/council/basic_policy_subcommittee/mitoshi/cost_wg/2024/data/05_05.pdf)

伊藤聡子氏は、最新の情報を合わせて客観的に報告できていないと思われませんが、貴殿はどのようにお考えですか。

6 伊藤聡子氏は、自然再生エネルギーは出力の低い時間帯は火力発電を焚き増しさせるので、間接的に二酸化炭素を出す電源だと報告しました。しかし、説明資料に示された出典先のURL（エネ庁：<https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/energy2023/07.html>）には、説明資料とは異なる図が載っており、そこには伊藤聡子氏の上記のような説明はありませんでした。

加えて言えば、原発は定期点検に入れば長期間にわたって停止します。伊藤聡子氏の考えに基づけば、原発は定期点検で停止している間ずっと火力発電を焚き増しさせているということになりますが、見解を伺います。

7 上記の当会からの複数の質問や指摘から、伊藤聡子氏の資料は、自分の論理に都合のよい情報を抜き出して（切り取って）おり、自身の提供する情報があたかも科学的、学術的に承認されているかのように、さらには地層処分を推進するのに都合よく講演していることが明らかです。

また、参加者から「福島の人達の苦しみをどう考えていますか？」（ホームページQ&A15 ページ18）」の質問に、過酷事故から14年過ぎた現在でも「福島の皆さまには私も心を寄せたいと思いますし、」程度の認識でしかない伊藤聡子氏が、町民に「正しい知識を与える話題提供者」であるのかはなはだ疑問です。

伊藤聡子氏が開催趣旨の「専門家と考えよう地層処分のこと」を講演（できる）する人

物としての適格性を欠いていると思いますが、貴殿の見解を伺います。

以上